

DirectLink DLC 対応版
日本語 3270 エミュレータ
Ver5.04-01
リリースメモ

作成日：2018年 7月
キャノン IT ソリューションズ株式会社

Visual Basic は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録
商標または商標です。

目次

[Ver.5.04-01 での変更内容].....	1
---------------------------	---

[Ver.5.04-01 での変更内容]

No	概要	VerUp 区分	変更区分
1	印刷コマンドファイル(Print Command File:PCF)の作成・変更、および設定方法を示した、『印刷コマンドファイル・リファレンスマニュアル』をマスタ CD-ROM に追加	機能追加	プリンタ セッション/ ローカルコピー
2	Set Session Parameters(9)のセッション・オプションに"RETRY (規定値) /NORETRY"機能を追加 セッション・オプションの設定により、Send Key(3)を呼び出した場合下記の動作を行う RETRY : キーストロークが送信されるか、4分のタイムアウトが発生するまでキーストロークの再送を行う NORETRY : キーボードがブロックまたは使用されていることが確認されたら、関数は即座に戻る	機能追加	API 機能
3	「エミュレータのプロパティ」の状況依存ヘルプの誤記を修正 「nLPI の印刷方式」- 「行数基準」の有効範囲の上限 誤 : 128 行 正 : 255 行	説明修正	ヘルプ
4	コードテーブル設定のヘルプから「9821 キーボード」に関する記述を削除	説明修正	ヘルプ
5	EHLAPI のヘルプで、メニュー名とタイトル名が異なる箇所を修正	説明修正	ヘルプ

No.3	「エミュレータのプロパティ」の状況依存ヘルプの誤記を修正
変更内容	<p>ローカルコピー、およびプリンタ設定の「nLPIの印刷方式」の状況依存ヘルプの誤記を修正。</p> <p>「nLPIの印刷方式」－「行数基準」の有効範囲の上限</p> <p>誤：128行</p> <p>正：255行</p>
参照先	<p>「エミュレータのプロパティ」アプリケーションの下記の状況依存ヘルプ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[セッション設定] タブー [ローカルコピー設定] [基本設定] タブー [nLPIの印刷方式] ・[プリンタ定義] タブ 「プリンタ定義」を選択－ [設定] ボタン [基本設定] タブー [nLPIの印刷方式]

No.4	コードテーブル設定のヘルプから「9821 キーボード」に関する記述を削除
変更内容	<p>「一覧表示での操作方法」の説明から、サポートが終了している「9821 キーボード」を削除。</p>
参照先	<p>以下の順序で操作した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コードテーブル設定」のヘルプ（トピックの検索） ・「コードテーブル設定」－「ダイアログの各種設定項目」－「[一覧表示]ボタン」を選択 ・文書内の下線表示「一覧表示ダイアログボックス」を選択 ・文書内の下線表示「一覧表示上での操作」を選択 ・「一覧表示での操作方法」の説明から「9821 キーボード」の記述を削除

No.5	EHLLAPIのヘルプで、メニュー名とタイトル名が異なる箇所を修正
変更内容	<p>目次</p> <p>誤：「Visual Basic プリケーションからの構造化機能呼び出し」</p> <p>正：「Visual Basic アプリケーションからの構造化フィールド機能呼び出し」</p>
参照先	<p>「EHLLAPI (3270)」－「EHLLAPIについて」</p>

DirectLink DLC 対応版
日本語 3270 エミュレータ
Ver5.03-02
リリースメモ

作成日：2018年 1月
キャノン IT ソリューションズ株式会社

Microsoft、Windows、Windows Server および Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

目次

[Ver.5.03-02 での変更内容].....	1
---------------------------	---

[Ver.5.03-02 での変更内容]

No	概要	VerUp 区分	変更区分
1	以下の OS に対応 <ul style="list-style-type: none"> ・ Windows Server 2016 Standard Edition ・ Windows Server 2016 Datacenter Edition 	機能追加	システム全般
2	対応するホストコードを 0x4141~0x7FFE から 0x4141~0xFEFE に変更	機能追加	システム全般
3	セッションを起動したまま、ホスト側で DACTLU、DACTPU の実行後、ACTPU、ACTLU を実行してもセッションが確立されない現象を修正	バグ修正	システム全般
4	3270 と 5250 の共存環境でシステム終了を行うと、ディスプレイセッション終了処理途中に停止する現象がある現象を修正	バグ修正	ホストリンク エクスプローラ
5	ホストリンクエクスプローラの右側ウィンドウからツールが起動できない現象を修正	バグ修正	ホストリンク エクスプローラ
6	「高度な設定」の「「エミュレータのプロパティ」の表示」チェックがオフの場合、プロパティメニューが選択不能（グレー表示）にならない現象を修正	バグ修正	ホストリンク エクスプローラ
7	ディスプレイセッションの半角英数のフィールドで IME が全角になる現象を修正	バグ修正	ディスプレイ セッション
8	ディスプレイセッションに表示される文字が粗く見える現象を修正	バグ修正	ディスプレイ セッション

No	概要	VerUp 区分	変更区分
9	編集形式が「印刷コマンドファイル」の場合、最大印刷行数の行に、次行に印刷されるべき罫線が印刷される現象を修正	バグ修正	プリンタ セッション
10	編集形式が「印刷コマンドファイル」で最大印刷行数に 255 が設定されている場合、255 行ごとに改ページの値が出力される現象を修正 「最大印刷行数」 ・ PCF ファイルの場合「PageLength」 ・ PDF ファイルの場合「MAXIMUM_PAGE_LENGTH」	バグ修正	プリンタ セッション
11	Windows 10 Anniversary Update (Version 1607) から Fall Creators Update (Version 1709)環境でプリンタセッションが起動しない現象を修正	バグ修正	プリンタ セッション
12	EHLLAPI を使用したアプリケーションの起動が遅くなる場合がある現象を修正	バグ修正	API 機能
13	マクロ記録の一時停止中にマクロ中止機能を実行すると、マクロコントローラが終了しない現象を修正	バグ修正	マクロ
14	VBScript 形式のマクロでセッションの CapsLock 状態、Shift 状態の変化を認識できない現象を修正	バグ修正	マクロ
15	VBScript 形式のマクロで WaitForTransition メソッドで待機が終了しない現象を修正	バグ修正	マクロ

No	概要	VerUp 区分	変更区分
16	ディスプレイセッションを MDI 形式で利用している場合、VBScript 形式のマクロが再生できないことがある現象を修正	バグ修正	マクロ
17	IBM 社製 Personal Communications（以降 PCOMM）で記録した VBScript 形式のマクロで、特定のキーワードが含まれるマクロを再生すると「無効なキーワードが指定されました」のエラーとなる現象を修正	バグ修正	マクロ
18	バージョンアップ後に「エミュレータスタイルの設定」ツールを起動すると以下のメッセージが表示される現象を修正 「レジストリ情報が不正です。 初期設定を行いますか？」	バグ修正	ツール
19	コードテーブル設定でコードの割り当てを変更後にファイルの新規作成をすると、一部の割り当て設定が残ってしまう現象を修正	バグ修正	ツール
20	[オンラインヘルプ]-[VBScript マクロ]を選択すると文字化けする現象を修正	バグ修正	ヘルプ

No.2	対応するホストコードを 0x4141~0x7FFE から 0x4141~0xFEFE に変更
詳細	<p>対応する機能は以下の通りです</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスプレイセッション ・ローカルコピー ・プリンタセッション ・ファイル転送 ・CJSBDX ・PCSAPI ・EHLLAPI ・マクロ/スクリプト ・キーアサイン ・UPF ・ホットスポット ・マウス設定

No.3	セッションを起動したまま、ホスト側で DACTLU、DACTPU の実行後、ACTPU、ACTLU を実行してもセッションが確立されない現象を修正
発生条件	<p>以下の条件をすべて満たしている場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セッションが起動した状態のまま、ホストから切断・再接続 ・ホスト側から SABME コマンドを複数回連続して送信 ・ホスト側から SABME コマンドの後に RNR/RR コマンドを送信
障害内容	セッションを起動したまま、ホスト側で DACTLU、DACTPU の実行後、ACTPU、ACTLU を実行してもセッションが確立されない。
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.4	3270 と 5250 の共存環境でシステム終了を行うと、ディスプレイセッション終了処理途中に停止する現象がある現象を修正
発生条件	3270、5250 の各ディスプレイセッションを 1 セッション以上起動した状態で、3270、あるいは 5250 のディスプレイセッション、またはプリンタセッションからシステム終了する。
障害内容	エミュレータが終了できない場合がある。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.5	ホストリンクエクスプローラの右側ウィンドウからツールが起動できない現象を修正
発生条件	ホストリンクエクスプローラで以下の手順を実行した場合。 ①[ツール]メニューから「保守ユーティリティ」を起動 ②右側ウィンドウから「CJSBDX」を起動
障害内容	ホストリンクエクスプローラの右側ウィンドウから「CJSBDX」が起動できない。 下記メッセージが表示される。 「ツールの起動に失敗しました。(WinExec)」
アップデート未実施時の回避策	「エミュレータ保守」の終了後に、「CJSBDX」を起動する。

No.6	「高度な設定」の「エミュレータのプロパティ」の表示」チェックがオフの場合、プロパティメニューが選択不能（グレー表示）にならない現象を修正
発生条件	ホストリンクエクスプローラのプロパティにある「高度な設定」の「カスタマイズ」タブで、「エミュレータのプロパティ」の表示」のチェックがオフの場合。
障害内容	プロパティが選択できてしまう。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.7	ディスプレイセッションの半角英数のフィールドで IME が全角になる現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・「エミュレータのプロパティ」で「FEP 自動起動」「FEP 自動終了」設定がオン ・画面内に FEP が全角に変わるデータが含まれている ・画面データ受信直後、半角フィールド上にカーソルがある ・FEP が全角に変わるデータを処理してから、最後に FEP が半角に変わるデータを処理するまで 15 ミリ秒以内
障害内容	半角英数フィールドにカーソルがある場合でも、IME が全角入力モードになる。
アップデート未実施時の回避策	IME のモードを変更してから入力する。

No.8	ディスプレイセッションに表示される文字が粗く見える現象を修正
発生条件	「MS 明朝」のようなセリフ付きフォントが選択されている場合。
障害内容	ディスプレイの表示文字を拡大すると文字が粗く見える。
アップデート未実施時の回避策	フォントを「MS ゴシック」のようなセリフなしフォントに変更する。

No.9	編集形式が「印刷コマンドファイル」の場合、最大印刷行数の行に、次行に印刷されるべき罫線が印刷される現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・編集形式が「印刷コマンドファイル」 ・最大印刷行の次行に罫線が存在するデータを受信
障害内容	罫線が 1 つ上の行に印刷される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.10	<p>編集形式が「印刷コマンドファイル」で最大印刷行数に 255 が設定されている場合、255 行ごとに改ページの値が出力される現象を修正</p> <p>「最大印刷行数」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PCF ファイルの場合 「PageLength」 ・ PDF ファイルの場合 「MAXIMUM_PAGE_LENGTH」
発生条件	<p>以下の条件をすべて満たしている場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 編集形式が「印刷コマンドファイル」 ・ 印刷コマンドファイル(*.PCF、*.PDF)の最大印刷行数に 255 を設定
障害内容	<p>255 行を超えた場合に、「印刷コマンドファイル」に設定されている復帰と改行の値ではなく、改ページの値が出力される。</p> <p>「改ページ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PCF ファイルの場合 「FormFeed」 ・ PDF ファイルの場合 「FORM_FEED」 <p>「復帰」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PCF ファイルの場合 「CarriageReturn」 ・ PDF ファイルの場合 「CARRIAGE_RETURN」 <p>「改行」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PCF ファイルの場合 「LineFeed」 ・ PDF ファイルの場合 「LINE_FEED」
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.11	Windows 10 Anniversary Update (Version 1607)から Fall Creators Update (Version 1709)環境でプリンタセッションが起動しない現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Windows 10 Anniversary Update (Version 1607)が適用済み ・ Windows 10 の機能で「Windows で通常使うプリンターを管理する」機能がオン ・ プリンタセッションのプロパティの出力先が「通常使うプリンター」に設定されている
障害内容	プリンタセッションが起動しない。
アップデート未実施時の回避策	以下のいずれかの方法を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Windows 10 の機能で「Windows で通常使うプリンターを管理する」機能をオフにする ・ プリンタセッションのプロパティの出力先に「通常使うプリンター」以外を設定する

No.12	EHLLAPI を使用したアプリケーションの起動が遅くなる場合がある現象を修正
発生条件	EHLLAPI を使用している場合。
障害内容	EHLLAPI モジュールは起動時に EHLLAPI トレースモジュールと通信を行っているが、この通信に時間がかかることがあり、起動が遅くなる。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.13	マクロ記録の一時停止中にマクロ中止機能を実行すると、マクロコントローラが終了しない現象を修正
発生条件	他のマクロが再生していない状態で以下の手順を行った場合。 ①マクロコントローラが起動していない状態で、ディスプレイセッションからマクロ記録開始 ②「マクロ記録」中に「一時停止」し、そのまま「マクロ中止」
障害内容	マクロ記録を一時停止中にマクロ中止機能を実行すると、マクロコントローラが終了しない。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.14	VBScript 形式のマクロでセッションの CapsLock 状態、Shift 状態の変化を認識できない現象を修正
発生条件	対象セッション以外のウィンドウにフォーカスを当てた状態で CapsLock 状態、Shift 状態を変更した場合。
障害内容	VBScript 形式のマクロでセッションの CapsLock 状態、Shift 状態の正しい状態が認識できない。
アップデート 未実施時の 回避策	セッションにフォーカスを当てた状態で CapsLock 状態、Shift 状態を変更する。

No.15	VBScript 形式のマクロで WaitForTransition メソッドで待機が終了しない現象を修正
発生条件	emIECLOIA.WaitForTransition メソッドのパラメーター Index (ガイドライン位置) に 2A、2B、2C を指定して、別のウィンドウにフォーカスを当てた状態で CapsLock 状態、Shift 状態を変更した場合。
障害内容	WaitForTransition メソッドで CapsLock 状態、Shift 状態の変更を待つと、待機が終了しない。
アップデート 未実施時の 回避策	セッションにフォーカスを当てた状態で CapsLock 状態、Shift 状態を変更する。

No.16	ディスプレイセッションを MDI 形式で利用している場合、VBScript 形式のマクロが再生できないことがある現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・ディスプレイ形式が「MDI 形式」 ・複数のディスプレイセッションを使用 以下の手順を実行した場合。 ①最後に起動したディスプレイセッション以外を終了 ②最後に起動したディスプレイセッションで VBScript 形式のマクロを実行
障害内容	VBScript 形式のマクロが再生できない。
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.17	IBM 社製 Personal Communications (以降 PCOMM) で記録した VBScript 形式のマクロで、特定のキーワードが含まれるマクロを再生すると「無効なキーワードが指定されました」のエラーとなる現象を修正
発生条件	PCOMM で以下の機能キーの入力を記録した VBScript 形式のマクロを再生した場合。 ・カラー選択 青緑
障害内容	PCOMM で記録した VBScript 形式のマクロを再生するとエラーになる。
アップデート 未実施時の 回避策	PCOMM で記録した VBScript 形式のマクロをテキストエディタで開き、エラーとなる PCOMM のキーワードを書き換えて保存し、修正後の VBScript 形式のマクロを再生する。 エラーとなる PCOMM のキーワードと修正後のキーワードの対応は以下の通り。 [turquoise] → [sky] カラー選択 青緑

No.18	バージョンアップ後に「エミュレータスタイルの設定」ツールを起動すると以下のメッセージが表示される現象を修正 「レジストリ情報が不正です。初期設定を行いますか？」
発生条件	バージョンアップインストール後、旧バージョン (5.03-01 以前) の設定を「レジストリ保守」で復元し、「エミュレータスタイルの設定」ツールを起動した場合。
障害内容	バージョンアップ後に「エミュレータスタイルの設定」ツールを起動すると以下のメッセージが表示され、「はい」を選択した場合は旧バージョンでカスタマイズした内容が破棄され、「いいえ」を選択した場合はスタイルを変更できない。 「メッセージ」 レジストリ情報が不正です。初期設定を行いますか？
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.19	コードテーブル設定でコードの割り当てを変更後にファイルの新規作成をすると、一部の割り当て設定が残ってしまう現象を修正
発生条件	<p>コードテーブル設定で以下の手順を実行した場合。</p> <p>①テーブルの最後の数文字（2バイトコード：2文字、1バイトコード：4文字）の割り当てを変更</p> <p>②「ファイル」メニューから「新規作成」を選択して差分ファイルを新規作成</p>
障害内容	コードテーブル設定でコードの割り当てを変更後にファイルの新規作成をすると、一部の割り当て設定が残ってしまう。
アップデート未実施時の回避策	「新規作成」で継続して設定を行う代わりに、一旦コードテーブル設定を再起動してから設定を行う。

No.20	[オンラインヘルプ]-[VBScript マクロ]を選択すると文字化けする現象を修正
発生条件	Internet Explorer メニュー「表示」－「エンコード」で「日本語（シフト JIS）」以外を選択しヘルプを起動した場合。
障害内容	ヘルプが文字化けする。
アップデート未実施時の回避策	<p>以下のいずれかを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Internet Explorer のエンコードを「シフト JIS」へ変更 ・「VBScript マクロ」ヘルプの右画面で、右クリック「プロパティ」選択し、「OK/キャンセル」を選択

お客様各位

キヤノンITソリューションズ株式会社

DirectLink DLC対応版
日本語 3270 エミュレータ
バージョン 5.03 リビジョン01 変更内容について

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「DirectLink DLC 対応版 日本語 3270 エミュレータ」
(Ver.5.02-01→Ver.5.03-01) において、下記のような改修を行いましたのでお知らせ
致します。

敬具

記

[強化項目]

以下の機能を強化しました。

[システム全般]

- ◎以下の OS に対応しました。
 - ・ Microsoft Windows 10 Pro
 - ・ Microsoft Windows 10 Pro x64
 - ・ Microsoft Windows 10 Enterprise
 - ・ Microsoft Windows 10 Enterprise x64

- ◎以下の OS を動作対象から除きました。
 - ・ Microsoft Windows 8 Pro
 - ・ Microsoft Windows 8 Pro x64
 - ・ Microsoft Windows 8 Enterprise
 - ・ Microsoft Windows 8 Enterprise x64

[ディスプレイ機能関連]

- ◎IBM 製 Personal Communications で記録して作成した VBScript 形式のマクロファイルを使用できるようになりました。

- ◎ディスプレイセッションの [操作] メニューに、マクロ機能のメニューを追加しました。
ただし、初期設定では非表示のため、表示するには、エミュレータスタイルの設定で“表示”にする必要があります。

[改修項目]

以下の問題点を修正しました。

[インストーラ関連]

- ・複数の弊社エミュレータが共存する環境でバージョンアップインストールを行うと、PC の再起動後にセッションが起動できなくなることがある。

- ・バージョンアップインストールを行うと、「ユーザ名」と「会社名」が、新規インストール時のユーザ登録画面で設定した情報から PC に登録されている情報に変更されてしまう。

[プリンタ機能関連]

- ・編集形式が「印刷コマンドファイル」以外の場合、「Vertical Tab」オーダーを受信すると 1 行余分に改行される。
- ・編集形式が「印刷コマンドファイル」の場合、次ページの印刷データの前に改ページコードを受信しても、用紙が排出されず、同じ用紙に続けて印刷される。
- ・編集形式が「印刷コマンドファイル」で PDF ファイルに"SET_2_LINES_PER_INCH"が設定されていない場合、「Set Line Density」オーダーを受信するとアプリケーションエラーが発生する。
- ・編集形式が「印刷コマンドファイル」で PDF ファイルに"FORWARD_HORIZONTAL_SKIP"が設定されていない場合、「Line Feed」オーダーまたは"Vertical Tab"オーダーを受信しても印刷位置が次行の同桁に移動しない。
- ・編集形式が「印刷コマンドファイル」で PDF ファイルに"OVERRIDE_FORMATTED_PRINT=NO"が設定されている場合、「Null」オーダーを受信すると印刷が行われなくなる。
- ・編集形式が「印刷コマンドファイル」で、YES/NO を指定する設定にそれ以外の値を指定した印刷コマンドファイルを選択した場合、以下の状況になり、印刷が行われない。
＜プリンタセッションでの印刷の場合＞
メッセージ欄に“PCF 読み込みエラー”が表示される。
＜ローカルコピーの場合＞
ローカルコピーを実行すると、ガイドラインに“現在プリンター作動不能 (DC キー)”が表示される、またはアプリケーションエラーが発生する。
- ・編集形式が「印刷コマンドファイル」の場合、外字の印刷結果に汚れがつくことがある。
※ローカルコピーでも現象が発生することがあります。
- ・編集形式が「印刷コマンドファイル」で ESC/P のローカルコピーを行うと、外字部分の下線が印刷されない。
- ・「エミュレータのプロパティ」で行ったローカルコピーの設定が、設定後に起動したディスプレイセッションのローカルコピーの結果や「ローカルコピーのプロパティ」に反映されていない。
※「エミュレータのプロパティ」の設定を移行する設定でバージョンアップインストールを行った環境では、現象は発生しません。

[ユーティリティ関連]

- ・「エミュレータのプロパティ」のプリンタの設定およびローカルコピーの設定で、基本設定の出力先プリンタのプロパティの設定が保存されないことがある。
※出力先プリンタのプロパティは、基本設定の編集形式が「Windows プリンタドライバ」で、詳細設定の「セッション起動時に出力先プリンタ設定の反映」をチェックした場合に設定できます。
- ・「マクロ編集」、「ホットスポット設定」で、ツールバーを非表示にすると、メニューバーの下に不要な空間が追加される。

[ヘルプ関連]

- ・ディスプレイセッションの「プログラムチェック 753」の説明に誤りがある。
＜誤＞
S F E、MF 副指令で無効な属性または値が指定されています。
＜正＞
S A、S F E、MF 副指令で無効な属性または値が指定されています。

[制限事項]

- ・以下の OS に「CJS DLC プロトコルドライバ」をインストールする場合、事前にマイクロソフト社から提供されているセキュリティ更新プログラムを適用する必要があります。

適用に際しては「マイクロソフト セキュリティ アドバイザリ 3033929」をご確認ください。

- ・対象となる OS
 - ・ Microsoft Windows 7 Professional
 - ・ Microsoft Windows 7 Professional x64
 - ・ Microsoft Windows 7 Enterprise
 - ・ Microsoft Windows 7 Enterprise x64
 - ・ Microsoft Windows 7 Ultimate
 - ・ Microsoft Windows 7 Ultimate x64

 - ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise
- ・セキュリティ更新プログラム
KB3033929

[その他]

以下の仮想環境での動作を確認しています。

仮想化システム	ゲスト OS	32 ビット	64 ビット
VMware Horizon View 6.1(ESXi 5.5 Update2)	Windows 7 Professional SP1	—	○
	Windows 8.1 Enterprise	○	—
	Windows Server 2008 R2 Datacenter SP1	—	○
	Windows Server 2012 R2 Standard	—	○
Citrix XenDesktop 7.5	Windows 7 Professional SP1	○	—
	Windows 8.1 Pro	—	○
	Windows Server 2008 R2 Datacenter SP1	—	○
	Windows Server 2012 R2 Standard	—	○
Microsoft VDI (Windows Server 2012 R2 Hyper-V)	Windows 7 Professional SP1	○	—
	Windows 8.1 Enterprise	—	○
	Windows Server 2008 R2 Standard SP1	—	○
	Windows Server 2012 R2 Standard	—	○
VMware ESXi 5.5	Windows Server 2012 R2 Standard	—	○
Windows Server 2012 R2 Hyper-V	Windows Server 2008 R2 Standard SP1	—	○

○：確認済み —：対象外

注意事項

・ DLC 接続について

- (1)弊社の確認作業では、VMware vSphere の仮想 NIC のタイプが「e1000」および「e1000e」の場合、通信が不安定になる現象が発生しました。VMware vSphere では、仮想 NIC のタイプを「vmxnet3」に設定することを推奨します。
- (2)チーミングした複数の仮想 NIC が同一の仮想スイッチに紐付けされている場合、ホストからの受信データが重複します。仮想スイッチと仮想 NIC は、1 対 1 となるように構成してください。
- (3)Windows Server 2012 R2 で Hyper-V 上の仮想マシンに DirectLink DLC 対応版の稼働環境を構築する場合、マイクロソフト社が提供する修正プログラムを以下のページからダウンロードしてホスト OS に適用する必要があります。
<http://support.microsoft.com/kb/2902821>
- (4)Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012 R2 の場合は CPU 数を 2 以上に設定することを推奨します。

<前提条件>

仮想環境での利用を計画する場合、次の条件をふまえて検討してください。

- ・仮想化システム、ゲスト OS の保守については、お客様の責任でそれぞれのメーカー様、ベンダー様とご契約ください。
- ・ゲスト OS は、ネットワークの接続も含め正常に動作している必要があります。
- ・ゲスト OS のリソースは、ゲスト OS の必要分の他に弊社製品の H/W 要件を満たす十分なリソースを割り当ててください。
- ・仮想環境に起因する不具合は、弊社では対応できません。それぞれのメーカー様、ベンダー様までお問い合わせください。

弊社で確認した仮想化システムとゲスト OS のバージョンと違うバージョンを組み合わせた場合の動作については弊社営業にご相談ください。

以上

Microsoft、Windows、Windows Server および Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

お客様各位

キヤノンITソリューションズ株式会社

DirectLink DLC対応版
日本語 3270 エミュレータ
バージョン 5.02 リビジョン01 変更内容について

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「DirectLink DLC 対応版 日本語 3270 エミュレータ」
(Ver.5.01-01→Ver.5.02-01) において、下記のような改修を行いましたのでお知らせ
致します。

敬具

記

[強化項目]

以下の機能を強化しました。

[システム全般]

- ◎以下の OS を動作対象から除きました。
- ・ Microsoft Windows Vista Business
 - ・ Microsoft Windows Vista Business x64
 - ・ Microsoft Windows Vista Enterprise
 - ・ Microsoft Windows Vista Enterprise x64
 - ・ Microsoft Windows Vista Ultimate
 - ・ Microsoft Windows Vista Ultimate x64

 - ・ Microsoft Windows Server 2008 Standard
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 Standard x64
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 Enterprise
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 Enterprise x64

[インストーラ関連]

- ◎以下の OS で、「ホストリンクエクスプローラ」と「ツールパネル」のショートカットをデスクトップに作成できるようにしました。
- ・ Microsoft Windows 7 Professional
 - ・ Microsoft Windows 7 Professional x64
 - ・ Microsoft Windows 7 Enterprise
 - ・ Microsoft Windows 7 Enterprise x64
 - ・ Microsoft Windows 7 Ultimate
 - ・ Microsoft Windows 7 Ultimate x64

 - ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise

[改修項目]

以下の問題点を修正しました。

[インストーラ関連]

- ・「Windows¥system」フォルダのある OS でエミュレータのアンインストールに失敗した場合、再度アンインストールを実行するとアンインストールが終了しないことがある。

[DirectLink(DLC 接続)関連]

- ・受信した TEST コマンドの DSAP が「0x00」の場合、DSAP に一致する「ローカル SAP」がないためレスポンスを送信しない。

*DSAP : Destination Service Access Point

[マニュアル関連]

- ・『ソフトウェア説明書』に、リモートデスクトップサービスまたはターミナルサービスがインストールされている環境にエミュレータをインストールしようとした場合、インストールの途中でフォントの登録に失敗する現象を回避する方法が記載されていない。

[制限事項]

- ・以下の OS に「CJS DLC プロトコルドライバ」をインストールする場合、事前にマイクロソフト社から提供されているセキュリティ更新プログラムを適用する必要があります。

適用に際しては「マイクロソフト セキュリティ アドバイザリ 3033929」をご確認ください。

- ・対象となる OS
 - ・ Microsoft Windows 7 Professional
 - ・ Microsoft Windows 7 Professional x64
 - ・ Microsoft Windows 7 Enterprise
 - ・ Microsoft Windows 7 Enterprise x64
 - ・ Microsoft Windows 7 Ultimate
 - ・ Microsoft Windows 7 Ultimate x64

 - ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise
- ・セキュリティ更新プログラム
KB3033929

[その他]

以下の仮想環境での動作を確認しています。

仮想化システム	ゲスト OS	32 ビット	64 ビット
VMware Horizon View 6.0 (ESXi 5.5 Update2)	Windows 7 Professional SP1	—	○
	Windows 8.1 Enterprise	○	—
	Windows Server 2008 R2 Datacenter SP1	—	○
	Windows Server 2012 R2 Standard	—	○
Citrix XenDesktop 7.5	Windows 7 Professional SP1	○	—
	Windows 8.1 Enterprise	—	○
	Windows Server 2008 R2 Datacenter SP1	—	○
	Windows Server 2012 R2 Standard	—	○
Microsoft VDI (Windows Server 2012 R2 Hyper-V)	Windows 7 Professional SP1	○	—
	Windows 8.1 Enterprise	—	○
	Windows Server 2008 R2 Standard SP1	—	○
	Windows Server 2012 R2 Standard	—	○
VMware vSphere 5.5	Windows Server 2008 R2 Standard	—	○
Windows Server 2012 Hyper-V	Windows Server 2012 Standard	—	○

○：確認済み —：対象外

注意事項

・ DLC 接続について

- (1)弊社の確認作業では、VMware vSphere の仮想 NIC のタイプが「e1000」および「e1000e」の場合、通信が不安定になる現象が発生しました。VMware vSphere では、仮想 NIC のタイプを「vmxnet3」に設定することを推奨します。
- (2)チーミングした複数の仮想 NIC が同一の仮想スイッチに紐付けされている場合、ホストからの受信データが重複します。仮想スイッチと仮想 NIC は、1 対 1 となるように構成してください。
- (3)Windows Server 2012/2012 R2 で Hyper-V 上の仮想マシンに DirectLink DLC 対応版の稼働環境を構築する場合、マイクロソフト社が提供する修正プログラムを以下のページからダウンロードしてホスト OS に適用する必要があります。
<http://support.microsoft.com/kb/2902821>
- (4)CPU 数について、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012/2012 R2 の場合は CPU 数を 2 以上に設定することを推奨します。

<前提条件>

仮想環境での利用を計画する場合、次の条件をふまえて検討してください。

- ・ 仮想化システム、ゲスト OS の保守については、お客様の責任でそれぞれのメーカー様、ベンダー様とご契約ください。
- ・ ゲスト OS は、ネットワークの接続も含め正常に動作している必要があります。
- ・ ゲスト OS のリソースは、ゲスト OS の必要分の他に弊社製品の H/W 要件を満たす十分なリソースを割り当ててください。
- ・ 仮想環境に起因する不具合は対応できかねます。

弊社で確認した仮想化システムとゲスト OS のバージョンと違うバージョンを組み合わせた場合の動作については弊社営業にご相談ください。

以上

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Server および Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

お客様各位

キャノンITソリューションズ株式会社

DirectLink DLC対応版
日本語 3270 エミュレータ
バージョン 5.01 リビジョン01 変更内容について

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「DirectLink DLC 対応版 日本語 3270 エミュレータ」
(Ver.4.10-01→Ver.5.01-01) において、下記のような改修を行いましたのでお知らせ
致します。

敬具

記

[強化項目]

以下の機能を強化しました。

[システム全般]

- ◎以下の OS に対応しました。
- ・ Microsoft Windows 8 Pro
 - ・ Microsoft Windows 8 Pro x64
 - ・ Microsoft Windows 8 Enterprise
 - ・ Microsoft Windows 8 Enterprise x64
 - ・ Microsoft Windows 8.1 Pro
 - ・ Microsoft Windows 8.1 Pro x64
 - ・ Microsoft Windows 8.1 Enterprise
 - ・ Microsoft Windows 8.1 Enterprise x64
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 Standard(SP2)
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 Standard x64(SP2)
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 Enterprise(SP2)
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 Enterprise x64(SP2)
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard(SP2)
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise(SP2)
 - ・ Microsoft Windows Server 2012 Standard
 - ・ Microsoft Windows Server 2012 Datacenter
 - ・ Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard
 - ・ Microsoft Windows Server 2012 R2 Datacenter

- ◎以下の OS を動作対象から除きました。
- ・ Microsoft Windows XP Professional
 - ・ Microsoft Windows XP Professional x64

- ◎必要メモリサイズが「約 256MB」になりました。

[ホストリンクエクスプローラ機能関連]

- ◎セッションを起動するショートカットをデスクトップに作成できるようにしました。

[DirectLink(DLC 接続)関連]

- ◎CJSDLC ドライバが NDIS6.0 に対応しました。
- ◎以下の操作を行った際に、LAN アダプタのアダプタ番号が変更されないようにしました。
 - ・ NIC(Network Interface Card)の着脱、または有効/無効の切り替え
 - ・ 「CJS DLC プロトコル」の有効/無効の切り替え ※1
- ※1：Windows Server 2008 の場合はローカル エリア接続のプロパティで、Windows Server 2012 の場合はイーサネットのプロパティで設定します。

[プリンタ機能関連]

- ◎IBM 製 Personal Communications のプリンタセッションで使用する PDF ファイルを利用できるようにしました。

[ツール関連]

- ◎CJSDLC ドライバ保守ツールのアダプタ番号表示画面に、CJSDLC ドライバの状態を表示するようにしました。
- ◎CJSDLC ドライバ保守ツールにサービス画面を追加し、以下の操作をできるようにしました。
 - ・ CJSDLC ドライバの開始/停止
 - ・ CJSDLC ドライバのファイル情報の参照

[保守機能関連]

- ◎「エミュレータ保守」の保守機能を強化しました。
また、各種ツールの保守機能を「エミュレータ保守」に統合しました。
<主な機能>
 - ・ 各種トレースの採取設定
 - ・ 各種トレースの詳細設定（ファイルサイズ、ファイル数、採取レベル）
 - ・ 各種ログの採取
 - ・ イベントログの設定（出力レベル）
 - ・ エラーログの設定（ファイルサイズ、ファイル数）
 - ・ トレース/ログの総出力サイズ、および出力先ドライブの空き容量の表示
 - ・ 情報収集これにより、エミュレータのプロパティの「保守設定画面」、および CJSDLC ドライバ保守の「トレース設定画面」は削除しました。
- ◎トレースを出力する処理を高速化しました。
- ◎DLC 接続のスローダウンの発生状況をイベントログに出力するようにしました。

[改修項目]

以下の問題点を修正しました。

[インストーラ関連]

- ・ TCPLink 6680 エミュレータ Ver.4.11-01 を新規インストールまたはバージョンアップインストールすると、以下のエミュレータでホストにログオンできなくなる。
 - ・ TCPLink 日本語 3270 エミュレータ
 - ・ DirectLink DLC 対応版 日本語 3270 エミュレータ
 - ・ DirectLink HNALAN 対応版 560/20 エミュレータ
- ・ バージョンアップインストールを行うと、正常にインストールが完了しているにもかかわらず、「このプログラムは正しくインストールされなかった可能性があります」というメッセージが表示されることがある。

[DirectLink(DLC 接続)関連]

- ・DLC 接続で、送信ができず「お待ちください」が表示されたままになることがある。
- ・トレース出力によるディスク I/O 処理で遅延が発生した場合に、通信が切断されることがある。
- ・DLC 接続で、受信したコマンドのフレームタイプではなく、常に 802.3 形式と Ethernet V2 形式の両フレームタイプで TEST レスポンスおよび XID レスポンスを送信する。

[ディスプレイ機能関連]

- ・IME の種類によって、以下の機能でカナ入力モード(キーボードのひらがなの刻印)に切り替わらない。
「カナモード」「カナ R 切替」機能キー
- ・英小文字拡張で以下の文字を入力しようとすると、「英小文字セットのみ入力可能」と表示され入力できない。

PC コード		表示される文字
0xFD	→	┌
0xFE	→	＼
0xFF	→	～

[プリンタ機能関連]

- ・プリンタ定義で出力先を「通常使うプリンタ」に設定している場合に、プリンタセッションで「終了時の状態保存」を ON にしてプリンタセッションを終了し、OS の「通常使うプリンター」を削除/名称変更するとプリンタセッションが起動できない。

- ・「グラフィック・ローカルコピーのカラー印刷」を行わない設定で、背景色が白以外の場合にグラフ印刷を行うと、画面のところどころにブロック状の図形が印刷される。

- ・エミュレータのプロパティで文字モードが英小文字拡張に設定されている場合の表示/印字結果が、IBM 製 Personal Communications と異なっている。

ホストコード		PC コード
A0	→	7E(┌)
A1	→	FF(～)

- ・80 バイト以上のプリンタ名のプリンタを使用すると、アプリケーションエラーが発生する。
※使用するプリンタのプリンタ名は、79 バイト以内で設定してください。

[ファイル転送機能関連]

- ・ファイル転送の「受信」が正常に実行できる状態で、「TRANS102 ディスプレイセッションが起動していません ファイル転送を中止します」のメッセージが表示されることがある。

[ユーティリティ関連]

- ・コード変換テーブル (送信 : JIS83→ホスト) の初期値の誤りを修正しました。
対象 JIS コード : 0x8D3F~0x8D48、0x8D4E~0x8D57、0x9175、0x917A

- ・プリントジョブスケジューラ設定でプリントジョブ出力後の処理に「指定時間後に削除」を指定しているにもかかわらず、設定した指定時間を過ぎた情報が残ることがある。

[保守機能関連]

- ・レジストリ保守ツールで [ファイル出力] をした場合、以下の項目が出力されない。
 - ・通信システム設定項目
 - ・マクロコントローラの表示
 - ・プリントジョブスケジューラの表示

[API 機能関連]

- EHLLAPI で、「Search Presentation Space(6)」を実行すると、EHLLAPI アプリケーションが応答しなくなる。
- セッションを起動していない状態で、EHLLAPI の「Copy Presentation Space(5)」を実行すると、ランタイムエラーが発生する。
- セッションを起動していない状態で、EHLLAPI の「Copy Presentation Space(5)」を、コピーの開始位置が 2 バイト文字の 2 バイト目や終了位置が 2 バイト文字の 1 バイト目になる状態で実行すると、アプリケーションエラーが発生することがある。
- EHLLAPI の「Copy Field To String(34)」で、フィールド長を超える値のデータ・ストリング長を指定すると、戻りコードが「6」にならず「0」となる。

※戻りコード「6」:HARC_TRUNCATION
戻りコード「0」:HARC_SUCCESS

[制限事項]

- Ver.4.10-01 より前のバージョンの TCPLink スタンダード/DirectLink との共存はできません。
- プリントサーバとの共存はできません。
- TCPLink ゲートウェイサーバとの共存はできません。
- DirectLink DLC 対応版 日本語 5250 エミュレータとの同時利用はできません。

[その他]

以下の仮想環境での動作を確認しています。

デスクトップ仮想化

仮想化システム	ゲスト OS	32 ビット	64 ビット
VMware Horizon View 6.0 (ESXi 5.5)	Microsoft Windows 7 Professional SP1	—	○
	Microsoft Windows 8.1 Pro	—	○
	Microsoft Windows Server 2008 R2 Datacenter	—	○
Citrix XenDesktop 7.5	Microsoft Windows 7 Professional SP1	—	○
	Microsoft Windows 8.1 Pro	—	○
	Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard SP1	—	○
	Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard	—	○
Microsoft VDI G2	Microsoft Windows 7 Professional SP1	—	○
	Microsoft Windows 8.1 Pro	—	○
	Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard SP1	—	○
	Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard	—	○

○：確認済み —：対象外

サーバ仮想化

仮想化システム	ゲスト OS	32 ビット	64 ビット
VMware vSphere 4.1	Microsoft Windows 7 Enterprise SP1	○	—
Windows Server 2012 Hyper-V	Microsoft Windows Server 2012 Standard	—	○
Windows Server 2012 R2 Hyper-V	Microsoft Windows Server 2008 Standard	—	○

○：確認済み —：対象外

<注意事項>

・デスクトップ仮想化について

仮想化されたデスクトップ環境にエミュレータをインストールする場合、セットアップが停止する問題が発生します。

その場合は、以下の回避策をお試しくください。

【Horizon View】

VMware 社 Web サイトにて次の内容をご確認の上お試しくください。

- ・VMware Knowledge Base 2091845

タイトル「Legacy applications fail to start with the VMware View 6.0 or 6.0.1 agent installed (2091845)」

【XenDesktop】

①デバイスマネージャを起動し、「Citrix Devices」の「Citrix Systems Inc. Console Mouse Device」を無効にし、OS を再起動します。

②エミュレータをインストールします。

③①の「Citrix Systems Inc. Console Mouse Device」を有効にし、OS を再起動します。

・ DLC 接続について

- (1) 弊社の確認作業では、VMware vSphere の仮想 NIC のタイプが「e1000」および「e1000e」の場合、通信が不安定になる現象が発生しました。VMware vSphere では、仮想 NIC のタイプを「vmxnet3」に設定することを推奨します。
- (2) チーミングした複数の仮想 NIC が同一の仮想スイッチに紐付けされている場合、ホストからの受信データが重複します。仮想スイッチと仮想 NIC は、1 対 1 となるように構成してください。
- (3) Windows Server 2012/2012 R2 で Hyper-V 上の仮想マシンに DirectLink(DLC 接続)稼働環境を構築する場合、マイクロソフト社が提供する修正プログラムを以下のページからダウンロードしてホスト OS に適用する必要があります。
<http://support.microsoft.com/kb/2902821>
- (4) Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012/2012 R2 の場合は CPU 数を 2 以上に設定することを推奨します。

<前提条件>

仮想環境での利用を計画する場合、次の条件をふまえて検討してください。

- ・ 仮想化システム、ゲスト OS の保守については、お客様の責任でそれぞれのメーカー様、ベンダー様とご契約ください。
- ・ ゲスト OS は、ネットワークの接続も含め正常に動作している必要があります。
- ・ ゲスト OS のリソースは、ゲスト OS の必要分の他に弊社製品の H/W 要件を満たす十分なリソースを割り当ててください。
- ・ 仮想環境に起因する不具合は対応できかねます。

弊社で確認した仮想化システムとゲスト OS のバージョンと違うバージョンを組み合わせた場合の動作については弊社営業にご相談ください。

以 上

お客様各位

キヤノンITソリューションズ株式会社

DirectLink DLC対応版
日本語3270エミュレータ
バージョン4.10 リビジョン01 変更内容について

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「DirectLink DLC 対応版 日本語 3270 エミュレータ」
(Ver.3.51-01→Ver.4.10-01) において、下記のような改修を行いましたのでお知らせ
致します。

敬具

記

[概要]

- ・弊社社名変更に伴い、関連する表記を修正しました。

[強化項目]

以下の機能を強化しました。

[ディスプレイ機能関連]

◎以下の機能キーをサポートしました。

- ・後退(BS)
- ・タブワード
- ・後退タブワード
- ・挿入切替
- ・範囲移動↑
- ・範囲移動↓
- ・範囲移動←
- ・範囲移動→
- ・フィールド消去
- ・マクロ記録
- ・マクロ再生
- ・マクロ一時停止
- ・マクロ中止

※以下の機能には対応していません。

- ・ディスプレイセッションのツールボタン
- ・UPF
- ・エミュレータキーパッド
- ・ホットスポット
- ・マクロ
- ・EHLLAPI

◎「挿入」キーの名称を「挿入オン」に変更しました。

◎ローカルコピーにおいて、編集形式が「テキスト」の場合、通常のフォントにはない以下の特殊文字をスペースではなく代替文字で出力するようにしました。

代替文字

- ・ | (PCコード: 0x7F) → |
- ・ ~ (PCコード: 0xFF) → ~

[プリンタ機能関連]

◎編集形式が「テキスト」の場合、通常のフォントにはない以下の文字をスペースではなく代替文字で出力するようにしました。

- | | 代替文字 |
|---------------------|------|
| ・ (PC コード : 0x7F) | → |
| ・ ~ (PC コード : 0xFF) | → ~ |

[ユーティリティ関連]

◎エミュレータのプロパティにおいて、ディスプレイ定義のカラー設定の初期設定でメインフレームメーカーの純正エミュレータと同じ色に設定できるようにしました。

[API 機能関連]

◎提供ファイルを以下の環境で作成したファイルに変更しました。

- ・ C 言語 : Microsoft 社製 Visual C++ 6.0
- ・ VB 言語 : Microsoft 社製 Visual Basic 6.0

[改修項目]

以下の問題点を修正しました。

[インストール関連]

- ・ Ver.3.01-02 以上へのバージョンアップインストール時に移行項目として選択されたにもかかわらず、エミュレータのプロパティの設定以外の項目を移行せずに初期化してしまう。
※旧バージョンで新規作成されたキーマシンファイルおよび UPF 設定ファイルは除く。

[DirectLink(DLC 接続)関連]

- ・ SABME コマンドを受信後に XID コマンドを送信しようとするにより、通信チェック 510 から遷移しないことがある。
- ・ ネットワークの状態の切り替えにより、ブルースクリーンが表示されることがある。

[ディスプレイ機能関連]

- ・ SDI 形式の場合、UPF キーボードから「ジャンプ」キーまたは「前ジャンプ」キーが実行されると、セッションがハングアップする。
- ・ SDI 形式の場合、UPF キーボードのボタンが押下されると、アプリケーションエラーが発生することがある。
- ・ SDI 形式の場合、エミュレータキーボードから機能キーの実行および文字の入力が行われると、アプリケーションエラーが発生することがある。
- ・ SDI 形式の場合、「ジャンプ」キーまたは「前ジャンプ」キーが実行されても、画面を切り替えないことがある。
- ・ ローカルコピーで、ディスプレイ定義で設定された文字モードと異なる文字モードで印刷することがある。
- ・ ディスプレイのプロパティでグラフィック設定のグラフィックデータストリームでの解像度の設定が変更されても、セッションに変更内容を反映しない。
- ・ エミュレータのプロパティでディスプレイ定義のカラー設定が出荷時設定から変更されていない場合、無保護フィールドの背景色を初期設定の黒色ではなく黄色や赤色で表示することがある。

- ・アプリケーションに OLE オブジェクトとして埋め込んだセッションでキーが効かないことがある。
- ・アプリケーションに OLE オブジェクトとして埋め込んだセッションに入力された文字を画面が再描画されるまで表示しない。

[ファイル転送機能関連]

- ・ディスプレイセッションが SDI 形式の場合、ファイル転送が実行されると、アプリケーションエラーが発生することがある。

[ユーティリティ関連]

- ・エミュレータスタイルの設定のツールバータブにおいて、以下のショートカットキーでフォーカスが正しく移動しない。
 - ・ Alt+L
 - ・ Alt+B
 - ・ Alt+T
- ・レジストリ保守ツールの印刷機能およびファイル出力機能で、ソフトウェアスイッチの情報を正しく出力しないことがある。

[API 機能関連]

- ・SDI 形式のディスプレイセッションに EHLLAPI または PCSAPI の関数が実行されると、アプリケーションエラーが発生することがある。

[制限事項]

- ・以下の弊社エミュレータとの共存はできません。
 - ・ Ver.2.50-01 以前の SingleLink
 - ・ Ver.2.50-01 以前の DirectLink HIS 対応版

以 上

作成日：2012年 9月 4日

更新日：2015年 4月 2日

お客様各位

キヤノンITソリューションズ株式会社

DirectLink DLC対応版
日本語 3270 エミュレータ
バージョン 3.51 リビジョン01 変更内容について

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。

さて、当社製品「DirectLink DLC 対応版 日本語 3270 エミュレータ」

(Ver.3.50-01→Ver.3.51-01) において、下記のような改修を行いましたのでお知らせ致します。

敬具

記

[強化項目]

以下の機能を強化しました。

[システム全般]

- ◎以下の OS を動作対象から除きました。
 - ・ Windows 2000 Professional

[プリンタ機能関連]

- ◎編集形式が IBM5575/5577 の場合、最大印刷行数 255 行まで印刷できるようにしました。

[改修項目]

以下の問題点を修正しました。

[システム全般]

- ・ ホストコード (6D82、7278) との対応づけに誤りがあったため、JIS78、JIS83、JIS90 について次のように修正しました。

ホストコード		JIS コード (シフト JIS コード)
6D82	→	876A (F48A)
7278	→	916A (F98A)

- ・ エミュレータが起動されたまま OS をシャットダウンすると、「プログラムが閉じられていません」のメッセージが表示され、メッセージ内の「強制的にシャットダウン」を選択するとアプリケーションエラーが発生する。

[インストール関連]

- ・ Windows Vista または Windows 7 で、DLC プロトコルドライバのインストール時に「プログラム互換性アシスタント」の警告が表示される。

[ディスプレイ機能関連]

- ・ ブリンクモードが“ブリンク”の場合に、ディスプレイセッションが応答しなくなることがある。
- ・ グラフを含むデータを受信すると、プログラムチェック 781 等が表示される。

- ・ Windows Vista または Windows 7 で以下の条件をすべて満たす場合に、文字を入力すると、下線の一部や文字と隣り合った縦罫線が消えることがある。
 - ・ Windows のデスクトップのカスタマイズで「ClearType」を有効にしている
 - ・ エミュレータのディスプレイ定義で「直接描画方式」を指定している
- ・ セッション終了時、アプリケーションエラーが発生することがある。

[プリンタ機能関連]

- ・ 「プリンタセッション終了」のメッセージボックス表示中に、ディスプレイセッションからエミュレータ終了すると、アプリケーションエラーが発生する。

[ファイル転送機能関連]

- ・ ファイル転送パネルまたは CJSBDX で「Microsoft XPS Document Writer」に印刷すると、文字化けする。

[ユーティリティ関連]

- ・ 異なるプリンタドライバを同じプリンタ名で入れ替えた場合、エミュレータのプロパティのプリンタ定義を開こうとすると、「LODLIB32.EXE」のアプリケーションエラーが発生する。
- ・ エミュレータのプロパティのディスプレイ定義で、コードテーブル定義の「JIS コード指定」が空欄になっていることがある。
- ・ レジストリ保守で、レジストリの復元に失敗することがある。
- ・ レジストリ保守で「Microsoft XPS Document Writer」に印刷すると、文字化けする。

[API 機能関連]

- ・ EHLLAPI で、「Copy String To Presentation Space(15)」を実行すると、ディスプレイセッションが応答しなくなることがある。
- ・ EHLLAPI で、「Get Key(51)」の初回実行時の戻りコードが、関数の使用方法に問題がないにもかかわらず、「HARC_SYSTEM_ERROR」になることがある。
- ・ EHLLAPI で、キー入力する前に、セッション・オプションに TWAIT を指定して「Get Key(51)」を実行すると、Microsoft Visual C++ Runtime Library の Runtime Error が発生する。
- ・ EHLLAPI で、「Get Request Completion(125)」を実行すると、「PCSHLL32.DLL」のアプリケーションエラーが発生することがある。

以 上

2007年 9月28日

お客様各位

キヤノンITソリューションズ株式会社

**DirectLink DLC対応版
日本語 3 2 7 0 エミュレータ
バージョン 3.50 リビジョン01 変更内容について**

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「DirectLink DLC対応版 日本語3270エミュレータ」
(Ver.3.01-02->Ver.3.50-01)において、下記のような改修を行いました
のでお知らせ致します。

敬具

概要

- ・弊社社名変更に伴い、関連する表記を修正しました。

[強化項目]

以下の機能を強化しました。

[システム全般]

自動起動が設定されていない端末でのインストーラ起動モジュールを"SETUP.EXE"に変更しました。

[ユーティリティ関連]

エミュレータ保守ユーティリティのアイコンを変更しました。

[保守機能関連]

DLC プロトコルドライバの保守ユーティリティで、トレース出力先を即時変更できるようにしました。

DLC プロトコルドライバの保守ユーティリティで、以下の設定ができるようにしました。

- ・アダプタキューサイズ
- ・プロセスコントロールキューサイズ
- ・ローカル SAP キューサイズ
- ・最大アウト(フレーム)送出時の即時ポーリング

[改修項目]

以下の問題点を修正しました。

[システム全般]

- ・ホストコード(4F9F、5B99)との対応づけに誤りがあったため、JIS78、JIS83、JIS90 について次のように修正しました。

ホストコード	JIS コード
4F9F	9452(昂)
5B99	3937(昂)

[DirectLink(DLC 接続)関連]

- ・ CJS DLC の場合、DLC ドライバより LINK LOST イベントが通知されてもリンクが切断されないことがある。

[ディスプレイ機能関連]

- ・ 構造化フィールドの Set Reply Mode を受信すると、プログラムチェック 759 になることがある。

[プリンタ機能関連]

- ・ 24 行 80 桁目が漢字の 1 バイト目となっている画面のローカルコピーを連続して行うと行ずれする。

[ユーティリティ関連]

- ・ インストールされている全プリンタ名の合計が 4096 バイトを超える場合に、エミュレータのプロパティのディプリンタ定義の “出力先” リストに全プリンタ名が表示されない。

以 上

お客様各位

キヤノンITソリューションズ株式会社

DirectLink DLC対応版
日本語3270エミュレータ
バージョン3.01 リビジョン02 変更内容について

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「DirectLink DLC対応版 日本語3270エミュレータ」
(Ver.2.07-02->Ver.3.01-02)において、下記のような改修を行いました
のでお知らせ致します。

敬具

概要

[強化項目]

以下の機能を強化しました。

[システム全般]

- ◎NEC PC-9800シリーズが対応パーソナルコンピュータから除かれました。
これにより、エミュレータのプロパティのシステム設定から「キーボード種別」の設定を削除しました。
- ◎以下のOSに対応しました。
 - ・Windows XP Professional x64 Edition
 - ・Windows Vista Business
 - ・Windows Vista Business x64 Edition
 - ・Windows Vista Enterprise
 - ・Windows Vista Enterprise x64 Edition
 - ・Windows Vista Ultimate
 - ・Windows Vista Ultimate x64 Edition
- ◎以下のOSが動作対象から除かれました。
 - ・Windows 95 Operating System
 - ・Windows 98
 - ・Windows Millennium Edition
 - ・Windows NT 3.51 Workstation
 - ・Windows NT Workstation Operating System Version 4.0

[ホストリンクエクスプローラ機能関連]

- ◎エミュレータのプロパティ、プリントジョブスケジューラ、マクロコントローラを使用させないように設定できるようにしました。

[ユーティリティ関連]

- ◎エミュレータのプロパティのシステム設定タブのセッション設定をセッション設定タブに移動し、複数のセッションに対しまとめて設定できるようにしました。
- ◎エミュレータのプロパティの通信設定の「アダプタ番号」の設定範囲を0～15に拡張しました。

◎エミュレータのプロパティの通信設定で、以下の設定ができるようにしました。

- ・最大イン（フレーム）
- ・最大アウト（フレーム）
- ・再送制限
- ・応答タイマ（ t_1 ）
- ・受信確認タイマ（ t_2 ）
- ・非アクティブタイマ（ t_i ）

◎エミュレータのプロパティのディスプレイ定義で、無保護フィールドの背景色を設定できるようにしました。

[オンラインリファレンス関連]

◎リファレンスマニュアル、および状況依存ヘルプをWindowsヘルプ形式からHTMLヘルプ形式に変更しました。

[改修項目]

以下の問題点を修正しました。

[システム全般]

- ・デュアルCPUやハイパースレッドのマシンで、排他制御に問題があり、リソースが解放されない。

[Direct Link（DLC接続）関連]

- ・SABMEを受信しても応答が送信されず、通信チェック685になることがある。
- ・CJSDLCの場合、セッションの起動中にホストがシャットダウンすると再接続されない。
- ・CJSDLCの場合、ホストからの受信が遅延する。
- ・CJSDLCの場合、リンク確立後にTESTコマンドやXIDコマンド/レスポンスを受信すると、応答が送信されず通信チェック510になる。
- ・CJSDLCの場合、TESTコマンド受信時にリンク確立のシーケンスが実行されない。
- ・CJSDLCの場合、リンク確立後にDMレスポンスを受信しても通信チェック505にならない。

[ディスプレイ機能関連]

- ・MDI形式の場合、複数のセッションを使用していると、カーソルが正しくブリンクしないことがある。
- ・MDI形式の場合、子ウィンドウを最大化表示にして「終了時の状態を保存」を選択しても、最大化表示が保存されない。
- ・印刷中に、マクロがアサインされているキーを押すと、“指定対象は使用されています”と表示される。
- ・ホットスポット機能を使用していると、マウスによるカーソル移動ができない。

[プリンタ機能関連]

- ・ローカルコピーを行うと、ハングアップすることがある。
- ・プリンタセッションの終了に時間が掛かることがある。

[ファイル転送]

- ・末尾にEOFが付加されたファイルを送信すると、データ抜けが発生することがある。

[保守機能関連]

- ・リモートデスクトップを使用してDLCプロトコルドライバ保守ユーティリティでトレースの即時変更を行うと、変更が有効にならない。
- ・DLCプロトコルドライバの保守ユーティリティで、「トレース出力先パス」を空白にすると、CJSDLCドライバトレースがどこにも出力されないことがある。

[EHLLAPI/PCSAPI機能関連]

- ・EHLLAPIで、NORESETオプションを指定して「Send Key (3)」を実行すると、入力禁止状態の取消ができなくなる。

[IWS関連]

- ・マクロコマンド「window top」で、全ウィンドウの前に配置できないことがある。

[制限事項]

[EHLLAPI/PCSAPI機能関連]

- ・64ビット用SDKの提供はありません。

以上